

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		エスポワール西難波				公表日	令和8年3月1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		スペースを広くとれるように物の配置等工夫している。	問題なし。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	1	人員配置基準を守り加算要件を満たす配置を行っている。	1:1での配置が難しいときがある。「数字」としては適切であっても中身(内容)としての「数」になっていない時がある。今後検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		子どもたちが過ごしやすいように床材等を工夫している。	問題なし。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		定期的に掃除を行い清潔に努めている。	感染の恐れがある場合感染予防するスペースがない。今後どうするか検討していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	状況に応じてベッド等で過ごしてもらおうようにしている。	問題なし。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		毎日話し合いの機会を設けている。	問題なし。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		頂いた意見を参考に業務の改善に努めている。	問題なし。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		毎日話し合いの機会を設けている。	問題なし。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2	定期的に第三者に見てもらい評価を受けている。	今後も定期的に見てもらい評価を参考にする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		研修を積極的に行っている。	今後も研修を積極的に行う。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		作成・公表を行っている。	問題なし。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		専門的分野からの視点で意見交換を行い作成している。子どもや保護者からの意見、意向を聞いた上で計画作成を行っている。	問題なし。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		従業員と一緒にモニタリング評価を行ってから作成している。	問題なし。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		職員間全員で共有している。	問題なし。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		日々支援内容の確認はできている。時間を取り合うことができている。	今後も子供の状況をしっかり把握した上で活動内容を考える。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		支援会議を繰り返し行い取り組みが出来ている。	今後も具体的な計画を作成し支援につなげていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		毎月の活動内容を考え意見を出し合い作成している。	今後も毎月アイデアを出し合いながら作成していく。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		毎月の活動内容を定める際に季節の物など新しいイベント事を発案している。	今後もプログラムに変化をつけていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12		子どもの状況をしっかり把握し活動内容を考え計画している。	今後も子供の状況をしっかり確認して上で活動内容を考える。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		朝礼でしっかり確認をとる時間づくりを行っている。	問題なし。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	8	3	従業員の退勤時間が異なるので、翌日に情報共有している。	問題なし。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		連絡帳に細かく記載するようにしている。定期的に計画の見直しもやっている。	今後も日々の支援内容をわかりやすく伝え、工夫を継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		半年ごとに見直しを行っている。	問題なし。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11	1	各利用者に合わせた取り組みを行っている。	今後も従業員間で話し合いをし基本活動を継続していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12			問題なし。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		児童発達支援管理責任者が参加している。	今後も状況を理解している者が参加をしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	1	各学校の月間行事予定を確認しながら下校時間の確認、送迎時の時間調整を行っている。	今後も各学校の月間行事予定を確認して行く。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	1	連携し行なっている。	問題なし。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12		連携し行なっている。	問題なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	8	連携はしているが、研修はとくには受けていない。	今後の実施を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	11		今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	9		問題なし。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		送迎時には必ず当日の様子を伝え、保護者からの意見はスタッフ間で共有している。	問題なし。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	6		今後検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		説明を行っている。 必要があれば随時行っている。	問題なし。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		自らの意思が伝えやすいように声掛けを行ない、思いを汲み取り本人にとっていい選択が出来るよう関わっている。	問題なし。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12		説明を行っている。 必要があれば随時行っている。	問題なし。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		保護者からの相談には送迎時や日中の対応でしっかり対応している。	問題なし。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	6	施設での交流をするにも各家庭で仕事などで時間を作るのが難しい。	必要に応じて機会を設けられるよう検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		苦情がある場合は対応している。	問題なし。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		年4回安全教育をしている。日々の活動を発信している。	問題なし。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		行っている。	問題なし。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		配慮している。	問題なし。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	9	交流が難しい状況ではあるが今後検討していく。	今後検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		年間計画に取り入れマニュアルに沿って訓練と周知をしている。	問題なし。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	読み合わせや実際の避難場所行ってみるなどの訓練を実施している。	問題なし。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		発作マネジメントシートを作成し、施設内、車内に保管している。発作の様子・対応の仕方は施設内に掲示している。	問題なし。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		アレルギーは各利用者ごとに記載し掲示している。	問題なし。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		安全計画を作成し、研修・訓練だけではなく点検など年間経過に沿って実施した。	問題なし。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		研修内容の周知を安全教育として資料を配布している。	問題なし。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		ヒヤリハットの内容は対応したスタッフにより説明を受けた上で改善策等の会議をしている。	問題なし。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		虐待に対してはスタッフ間で研修だけでなく日頃より意見交換を行い支援を行っている。	問題なし。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12		年2回スタッフ間で話し合い、保護者にも説明している。支援方法を工夫することにより拘束時間のタンス区に努めることができている。	問題なし。	